



Title	轡と雲珠・辻金具の対応からみる古墳時代後期初頭の馬具製作
Author(s)	肥田, 翔子
Citation	待兼山考古学論集. 2025, 4, p. 483-494
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105064
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

轡と雲珠・辻金具の対応からみる 古墳時代後期初頭の馬具製作

肥 田 翔 子

はじめに

古墳時代馬具の研究において、後期初頭は国内馬具生産の再編があったとみられ、轡・杏葉での定型化・規格化や、新規型式の創出の動きがあり、倭王権の主導する製作・流通が背景として論じられてきた。本論ではこの変化が起こる時期の馬具生産について検討するため、金銅装轡・鉄製轡に伴う雲珠・辻金具の採用状況を確認することとしたい。

1. 雲珠・辻金具の組合せに関して

本論の視点 後期初頭の変化に関わる先行研究は以前拙論（肥田 2021）で触れたため省略するが、装飾性の高い金銅装馬具と、実用性が考慮される鉄製馬具の両者で生産体制の再編が言及される。そこで筆者は当該時期の馬具生産の究明に、性格の異なる両者の比較が有効とみる。本論では比較する視点の一つとして、各馬装に必要不可欠な轡を軸に、雲珠・辻金具の採用状況を取り上げ、各々の馬装組立における部品選択の比較を試みることを考えた。

先行研究 当該時期の雲珠・辻金具の組合せを扱った研究として、宮代栄一の f 字形鏡板轡・剣菱形杏葉・内湾楕円形鏡板轡を用いた馬具セットの類型化と変遷検討がある。f 字形・剣菱形には当初から環状雲珠・組合式辻金具が伴い、MT15 型式段階に鉢状雲珠・辻金具を伴う例が現れるが、当初の組合せが残り続けること、内湾楕円形には 2～3 点の辻金具を伴う場合が多く、MT15 型式段階に板状から鉢状辻金具に替わることなど指摘する（宮代 1993）。ほか、各繫の配置復元や各意匠馬具の組合せ検討（宮代 1996・2003 ほか）など、一連の研究は馬具研究における基礎的な編年や類型を提示している。また、古川匠は雲珠・辻金具も含めたセット内での銚規格分析より、氏の時期区分 4 期（MT15 型式段階）に銀張銚が大量使用され、銚規格もそうることから、日本列島での馬具生産組織が確立した段階と位置付けた。f 字形・剣菱形セットは環状雲珠・組合式辻金具、楕円形や鐘形のセットは鉢状雲珠・辻金具を伴うことが多いなど意匠毎の特色があり、各生産組織に独立性を認めつつ、銚規格や花文付雲珠・辻金具の採用などの共通性から各意匠が帰属する一つの大きな枠組みを想定する（古川 2019）。

鉄製轡に関しては、内湾楕円形鏡板轡にみられる辻金具2～3点の組合せがほかの鉄製轡にも多いことから、内湾楕円形は5世紀代の鉄製f字形、6世紀代の初期の環状轡と同一系譜の工人集団による製作とみる想定（宮代1993）などが示されてきた。

このように雲珠・辻金具の組合せに関して、金銅装・鉄製馬具ともに言及され、後期初頭に關する重要な指摘もすでにある。一方で、両者通しての整理は部分的または個別的であるようで、本論ではできる限り情報を比較できるよう提示し、論を進めたい。

2. 分析方法と分類の提示

分析方法 轡型式ごとに出土事例を抽出し、伴う雲珠・辻金具を確認する。対象とするのは、中期後半から後期に継続する轡であるf字形鏡板轡、内湾楕円形鏡板轡（ともに金銅装・鉄製）、後期初頭に新出する金銅装十字文楕円形鏡板轡、鉄製兵庫鎖付環状轡（素環式・矩形立聞式）とし（図1）、これらに伴う雲珠・辻金具で、型式、責金具の有無・条数、脚あたりの鉋数、地板への金銅張の有無などの要素を確認する。

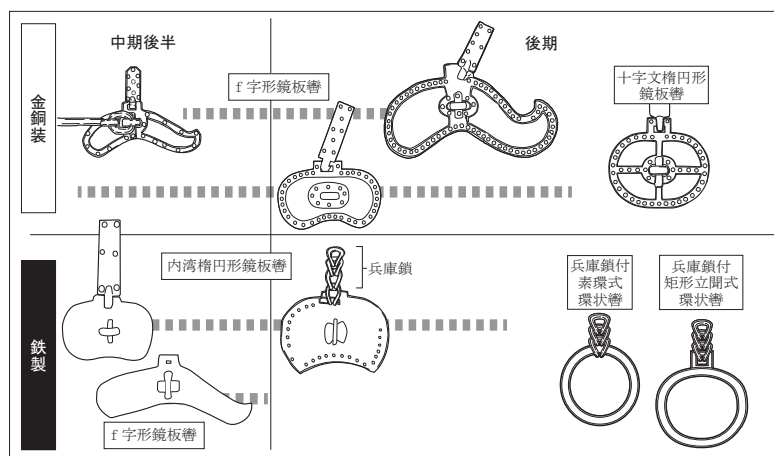


図1 分析対象とする轡形式

雲珠・辻金具の分類

対象資料にみられる型式からA～E類に分けた（図2）。同じセット内で複数類型を含む場合、各類型を個別に数えることとする。

また雲珠・辻金具の要素の時期的な変化を概略的に図で示

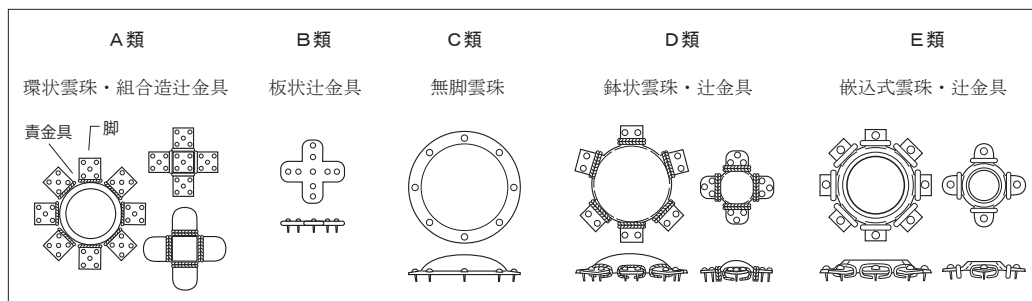


図2 雲珠・辻金具の類型設定

しておく（図3）。宮代の編年（前掲）や片山健太郎による中期馬具編年（片山2020：p.22）を参考とした。

時期区分 本論では、須恵器型式を用いた編年表記でTK208～TK47型式段階を中期後半、MT15～TK10型式段階を後期前半として扱う。ただし、後期初頭以後の定型品の特徴を有する場合等、構造的で後出的で後期中葉～後半（MT85～TK43型式段階）での製作・副葬が推定される出土例であっても取り上げる。

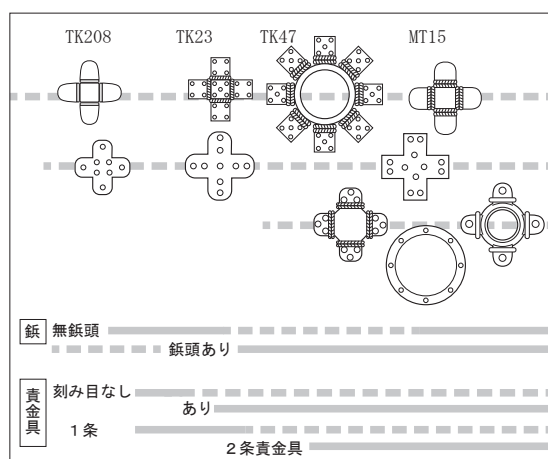


図3 雲珠・辻金具の要素変遷

3. 各轡型式の雲珠・辻金具の採用状況

（1）金銅装轡における様相（表1）

金銅装f字形鏡板轡 中期後半にA類12例、B類1例がみられる。A類（環状・組合式）の脚は地板が鉄地金銅張で、TK208型式段階には〔無鉤頭＋無刻目責金具1条〕だが、TK23～TK47型式段階には〔4鉤＋刻目入責金具1条〕が現れ、その後鉤数や責金具条数を増やした〔5鉤＋刻目入責金具2条〕へ変わるようである。

後期に入るとA類20例、C類6例、D類11例がみられる。中期後半と同様、A類を伴うものが多いが、脚は〔無鉤頭＋刻目入責金具2条〕となる。またこのうち、f字形鏡板轡分類（片山2018）を参考に後出的なものを抽出すると（一体被IV・VI・VII式、表中◇）、A類3例、D類5例で、D類（鉢状）が多くなるがA類も最終段階まで存在する。この点は先行研究で指摘されるようにf字形鏡板轡の特徴といえる（宮代1993）。

金銅装内湾楕円形鏡板轡 中期後半にはA類2例、D類1例がみられ、後期に入ると、A類3例、D類2例、E類1例となる。例数が少ないがf字形に近い傾向で、A類（環状・組合式）の使用を続けつつ、TK10型式段階以降B・E類（鉢状・嵌込式）も用いる。また、中期後半段階のD類（車谷42号墳例）の存在が注意される。

金銅装十字文楕円形鏡板轡 後期からの新出形式で、A類7例、C類5例、D類22例、E類2例と、D類（鉢状）が圧倒的に多く、E類（嵌込式）もみられるなどf字形の状況とは異なる。D類は〔3鉤＋刻目入責金具2条〕が主体的である。A類（環状・組合式）使用は、破片出土が多く実態は不明瞭だが、わずかに存在する。構造的に後出的なものは、C類1例、D類5例、E類1例で変わらずD類主体だが、刻目無し1条責金具を用いる例が現れる。

表1 中期後半～後期前半の金銅装轡に伴う雲珠・辻金具採用状況

都道府県	遺跡名	雲珠 / 出土数	辻金具 / 出土数	類型	責金具	刻目	脚の 鉄頭数	脚形	材質	装飾	杏葉	複数 セット	時期
f 字形（金銅装）													
長野県	新井原 12 号墳 4 号土壙		組合	1	A	1 条 ?	×	無	半円	金銅	劍菱		(TK208)
福岡県	塚堂古墳 (1 号石室)	?	環状 or 組合	2+		1 条 ?	?	無	半円	金銅	劍菱		TK208
群馬県	井出二子山古墳 (古相)		組合	?		1 条 ?	×	3	半円	金銅	(劍菱)	f 字 2 種 ※	TK23 ~ TK47
福岡県	山の神古墳 A		(組合)	1		1 条 ?	×	4	方形	?	劍菱 異劍菱	f 字 ※	(TK23 ~ TK47)
鳥取県	倭文 6 号墳		組合	2		1 条 / 2 条	○	4	方	金銅	劍菱		TK47
埼玉県	稲荷山古墳	環状	1	環状 組合	3	1 条 1 条 1 条	○ × ○	5 4 無	方 方 半円	? ? 金銅	三鈴		TK47
静岡県	石ノ形古墳 (新相)	(環状)		組合	3	1 条	○	無	半円	金銅	—	内湾 ※	(TK23 ~ TK47)
群馬県	井出二子山古墳 (新相)			組合	?	2 条 ?	× / ○	4/5	方 半円・五 角	金銅	劍菱	f 字 2 種 ※	
東京都	亀塚古墳	環状	1	(組合)		2 条	○	5	方	金銅	劍菱		TK47
福岡県	番塚古墳	環状	1	(組合)	3+	2 条	○	5	方	金銅	劍菱		TK47
三重県	キラ土古墳	環状	1+	(組合)	?	2 条	○	5	方	金銅	劍菱		TK47 ~ TK10 (TK47)
京都府	トツカ古墳			環状	1	—	—	—	—	—	劍菱	内湾 <?>	
鳥取県	東宗像 21 号墳			板状	3	—	—	1	半円	鉄	—		(TK23 ~ TK47)
鳥取県	六部山 1 号墳			環状 組合	1 1	1 条 ?	○	無	方	金銅	鉄劍菱 異劍菱		(TK47 ~ MT15)
大阪府	七ノ坪古墳	環状	1			2 条	○	無	半円	金銅	劍菱		TK47 ~ MT15
群馬県	前二子古墳 (絵図のみ)			環状 組合	3 1+	2 条	?	無	半円・方	金銅	劍菱 異劍菱		MT15
岐阜県	虎溪山 1 号墳			組合	3+	—	—	無	半円	金銅	—		MT15
滋賀県	木部天神山古墳 (環状)			組合	1	—	—	無	方 ?	?	—		TK10
三重県	井田川茶臼山古墳	環状	1	環状 組合	1? 3+	? 2 条	? ○	無 無	方 / 半円	金銅 金銅	劍菱	十棹 ☆	MT15 ~ TK43
三重県	薬師谷 14 号墳			組合	5	2 条	○	無	半円	金銅	—		TK10 ~ MT85
茨城県	水神峯古墳			組合	4+	2 条	○	無	半円	金銅	—		—
岐阜県	(伝) 二又古墳群			組合	2+	—	—	無	半円	金銅	—		(MT15 ~ TK10)
京都府	物集女車塚古墳	環状	1	環状 組合	1 2	—	—	—	—	—	劍菱	環状、 椿杏 ☆	TK10 ~ TK43
愛媛県	猿ヶ谷 2 号墳			組合	3+	2 条	○	無	半円	金銅	—	環状 3 種 ※	MT85 ~ TK43
愛媛県	経ヶ岡古墳 (f 字 2 個)			組合	4+	—	—	無	五角	金銅	(三棹)	鐘形、椿 杏 <?>	TK10 ~ TK43
静岡県	大門大塚古墳 ◇			組合	1	—	—	無	半円	金銅	劍菱	忍椿 <?>	TK10
福岡県	山の神古墳 B ◇	環状	1	組合	5	2 条	○	無	五角	金銅	劍菱	f 字 ☆	—
福岡県	西堂ヶ賀崎古墳 (f 字 2 個) ◇			組合	3?	—	—	無	半円	金銅	劍菱	環状 ※	TK43
岡山県	四つ塚 1 号墳	無脚	1	組合	1	—	—	無	半円	金銅	劍菱		TK10 ~ MT85
岡山県	中宮 1 号墳	無脚	1	組合	1	—	—	無	半円 ?	金銅 (銀 ?)	—	環状 2 種 ※	TK10
島根県	上島古墳	環状	1			2 条	○	—	—	金銅 金銅	劍菱	環状 ※	TK10 ~ MT85
佐賀県	潮見古墳 (f 字 2 個)	無脚	1							金銅	五鈴	f 字 <?>	(MT15 ~ TK10)
愛媛県	御座所権現山古墳			鉢状	6	2 条	○	1	方 / 半円	金銅	—		TK10
京都府	鹿谷 18 号墳 ◇	鉢状	1	鉢状 鉢状	5 2	2 条 2 条	○ ○	3 2	半円 方	金銅 金銅	花文	劍菱	MT10 ~ MT85
静岡県	崇信寺 10 号墳 ◇			鉢状	5	2 条	○	3	方	金銅	三鈴		(TK10)
大阪府	青松塚古墳 ◇			鉢状	6	2 条	○	4	方	金銅	劍菱		TK10 ~ TK43
大阪府	牛石 7 号墳			鉢状	1	2 条 ? 1 条 ?	? ?	3 2	半円 方	金銅 金銅	劍菱		TK10 ~ TK43
大阪府	河内愛宕塚古墳 ◇	鉢状	1	鉢状	8+	2 条	○	4	方	金銅	花文	劍菱	環状 ※
福岡県	桂川王塚古墳 ◇	鉢状	1	鉢状	15?	2 条	○	4	二山形	金銅	劍菱	十棹 ※	TK43 (MT15 ~ TK43)
千葉県	江子田金環塚古墳	鉢状	1	鉢状 組合	2 6	2 条	○	2・3 無	方 半円	金銅 金銅	花文	鐘	(MT15)
奈良県	新沢 178 号墳	鉢状	1	組合	4?	? —	? ○	1・2 1	半円・方 山形	金銅 鉄 ?	劍菱		TK43
愛知県	大須二子山古墳	無脚 ?	1	鉢状	1	2 条	○	1	方	金銅	劍菱 心葉		(TK47 ~ MT15)
島根県	めんぐろ古墳	無脚	1	鉢状 ?	1	2 条	○	4	二山形	金銅	劍菱 ?	環状 <?>	TK10 ~ MT85
内湾橋円形（金銅装）													
愛知県	経ヶ峰 1 号墳			組合	1	—	—	無	半円	金銅	—		(TK208)
長野県	北本城古墳	環状	1			1 条	○	(4)	(方)	?	—	環状 ※	(TK47 ~ MT15)
京都府	車谷 42 号墳			鉢状	2+	1 条	×	3	半円	金銅	—		TK47

奈良県	巨勢山 75 号墳	環状	1	組合	6	A	擬 2 条 2 条	○ ○	5 無	方 半円	金銅 金銅		劍菱		MT15
福井県	十善の森古墳			組合	2+		2 条 ?	○	無	五角 (+半円 ?)	金銅		劍菱		MT15
大阪府	寛弘寺 75 号墳	鉢状	1	鉢状 鉢状	1 3	D	2 条 1 条 ?	○ ?	3 1	半円 方	金銅 金銅		三棹	環状 <?>	(TK10 ~ 43)
静岡県	松永 6 号墳			嵌込	3	E	1 条	○	1	半円	金銅		—		TK10 ~ TK43
宮崎県	山崎下ノ原遺跡 SC16	鉢状	1	鉢状 組合	14 2	A D	1 条 —	×	3 無	半円 半円	金銅 金銅		棘葉		(TK43?)
十字文楕円形（金銅装）															
三重県	丸尾山古墳			組合	1	A	—	—	無	方	金銅			環状※	MT15 ~ TK10
奈良県	新沢 206 号墳			組合	5+		?	?	無	方	金銅			環状※	TK10
兵庫県	長尾タイ山古墳			組合	1		—	—	無	(方)	金銅				
静岡県	瓢箪塚古墳			組合	1		1 条	×	無	半円	金銅				(TK10)
愛知県	豊田大塚古墳	無脚	1	組合	3	A C	2 条	○	無	半円	金銅? 金銅?	花文		環状☆	TK10 ~ TK43
埼玉県	一夜塚古墳	無脚	1			C					金銅		三心	内湾, 環状 <?>	(TK10 ~ MT85)
滋賀県	鴨稲荷山古墳	鉢状	2	鉢状 環状 ?	4 1	A D	1 条 —	○ —	1 —	半円 —	金銅 —				MT15 ~ TK10
愛媛県	東宮山古墳	無脚	1	環状 鉢状	3 3	A C D	— 2 条	— ○	— 3?	— 方	金銅 金銅		—		MT85
岐阜県	二又 1 号墳	無脚	1	鉢状	2	D	2 条	○	3	方	金銅				MT15 ~ TK10
岡山県	弥上古墳◇	鉢状 無脚	2 1	鉢状	7	C D	2 条	○	4	方	金銅 金銅			環状※	TK43
三重県	井田茶臼山古墳	鉢状	1	鉢状	2 6	D	2 条	○	2・3 1	方 半円	金銅 金銅		忍棹	f 字☆	MT15 ~ TK10
福岡県	桂川王塚古墳	鉢状	1	鉢状	6?		2 条	○	2・3	方	金銅		三棹	f 字☆	(MT15 ~ TK43)
山口県	桑山塔ノ尾古墳 (絵図のみ)			鉢状	2		?	?	2	二山形	—		三棹		MT15
山口県	茶臼山古墳			鉢状	4		2 条	○?	2・3	半円	金銅				MT15
熊本県	塩塚古墳	鉢状	1				2 条	×	1	方	金銅	花文	三棹	環状※	TK10
大阪府	富木車塚古墳			鉢状	2+		2 条	○	2・4 3	方	金銅		三棹	環状※	TK10 ~ MT85
滋賀県	山津照神社古墳	鉢状	1	鉢状	2		2 条	○	3	半円					MT85
滋賀県	和田 11 号墳	鉢状	1	鉢状 鉢状	6 3		2 条 擬 2 条	○ ○	3 3	半円 棘花弁	金銅 金銅	花文 花座	忍棹		MT85 ~ TK43
静岡県	吉影 D3 号墳			鉢状	5		2 条	○	3	半円	金銅			環状※	(MT85 ~ TK43)
京都府	久田山 B-2 号墳			鉢状	6		2 条	○	3	半円	金銅	花文			TK10 ~ TK43
大阪府	西山 2 号墳			鉢状	1		擬 2 条	○	1	五角	金銅		三心		(MT85 ~ TK43)
大阪府	梶原 D-1 号墳			鉢状	1 1 1		2 条 2 条 擬 2 条	○ ○ ○	3 3 1	半円 方 半円	金銅 金銅 ?	花座			TK43
福岡県	正龍 3 号墳			鉢状	1		2 条	×	?	1	半円	金銅		複環, 環状※	MT85 ~ TK43
静岡県	荒久城山古墳◇			鉢状	3		2 条	○	3	半円	金銅		劍菱		MT85 ~ TK43
福島県	八幡 2 号横穴◇			鉢状	4		1 条	×	2・3	方・半円	金銅		環状※		MT85 ~ TK43
奈良県	豊田孤塚古墳◇ (銜先覆金具のみ)	鉢状	1	鉢状	6+		2 条	○	3	半円	金銅		三棹	環状※	TK43
大阪府	新戸屋古墳◇	鉢状	1	鉢状	7		2 条	○	3	隅切方	金銅				TK209
奈良県	高塚古墳	鉢状	1	鉢状	5		2 条	?	3	半円	金銅				TK209
千葉県	飯野九条塚古墳	嵌込貝	1	嵌込貝	2		1 条 ?	○	1	半円	金銅				TK43
広島県	山の神古墳◇ (銜先覆金具のみ)			嵌込	1	E	2 条	?	3	半円	金銅		三棹		—

表 1・2 の凡例

- 雲珠・辻金具の（ ）は確定ではないが想定可能な場合。
- 鉾数「無」としたものは、無鉾頭で鍛接した鉾脚をもつもの。
- 材質：板状部の材質。環状雲珠・辻金具は脚部で判断。「金銅」鉄地金銅張。「鉄」鉄製。「—」未出土。「?」未確認。
- 杏葉：「劍菱」劍菱形。「異劍菱」異形劍菱形（小型品含む）。「三棹」三葉文楕円形。「忍棹」忍冬文楕円形。「三心」三葉文心葉形。「心葉」心葉形。「鐘」鐘形。
- 複数セットのうち、☆は出土位置等から伴うセットを推定。※は特徴・時期等からセット関係を推定。<?>は判定困難ではかの轡に伴う可能性もあるもの。
- 複数セットの轡:「f 字」f 字形。「十棹」十字文楕円形。「忍棹」忍稲門楕円形。「内湾」内湾楕円形。「環状」環状轡。「複環」複環式。「楢杏」杏葉から楢円形セットがある可能性。
- 掲載報告書の表記は省略させていただいた。

（2）鉄製轡における様相（表 2）

鉄製 f 字形鏡板轡 中期後半に製作され、後期にはみられなくなる轡型式である。A 類 7 例、B 類 1 例と、金銅装 f 字形と同じく A 類（環状・組合式）主体だが、脚は鉄製で [3 鉾 + 無刻

表2 中期後半～後期前半の鉄製轡に伴う雲珠・辻金具採用状況

都道府県	遺跡名	雲珠 / 出土数		辻金具 / 出土数		類型	責金具	刻目	脚の鉋頭数	脚形	材質	装飾	杏葉		時期	
f 字形（鉄製）																
京都府	宇治二子山古墳	環状	1	環状組合	5	A	1条 1条	×	3無	半円 半円	鉄？ 金銅		鉄剣菱		(TK208)	
香川県	川上古墳			環状	1		—	—	(2)	(長方形)	—	—	—	—	—	TK208
岡山県	正崎2号墳			組合？	1+		1条	—	3	半円	金銅	—	—	—	—	—
長野県	宮垣外遺跡 SK64	環状	1				1条	×	3	半円	？		鉄剣菱		—	—
福岡県	小正西古墳			組合	1+		1条	×	3	半円	鉄	—	—	—	—	(TK47～MT15)
福岡県	本郷野間遺跡102号土壙	環状	1	組合	2		1条	—	○	(2)5	(長方形)方形	鉄鉄	—	—	—	(TK23～TK47)
三重県	大里西沖遺跡 SK105	環状	1	板状	1	A B	—	—	—	—	半円	鉄	—	剣菱	(TK23～TK47)	
内湾橋円形（鉄製） 金具不明は＊																
福岡県	本郷野間遺跡101号土壙			組合	2	A	1条	×	3	半円	？		—		(TK23～TK47)	
奈良県	寺口忍海D-27号墳			組合	1		1条	×	3	半円	鉄		—		—	TK47～MT15
静岡県	愛野向山B12号墳	環状	1	環状	4+		1条？	×	3	半円	？		鉄剣菱		—	(TK23～TK47)
千葉県	鵜崎天神台遺跡3号墳	環状	1	組合	2+		1条	×	3	半円	鉄？				—	—
奈良県	新沢112号墳			組合	3		1条	×	4	方	鉄				—	(TK23～TK47)
熊本県	城ヶ辻6号墳			環状 or 組合	2+		1条	×	3 4	半円 方	？		—		—	MT15？
静岡県	高尾向山3号墳	環状	1	組合	2+	A B	1条 1・2条	×	4 3	方 方	金銅 金銅		—		(MT15～TK10)	
埼玉県	どうまん塚古墳＊	環状	1	板状	2		？	？	？	？	半円	金銅鉄		剣菱		(TK47)
奈良県	寺口忍海H-16号墳			板状	3		1条	×	縦2	2	半円	鉄		—		TK47
埼玉県	諏訪山1号墳（2号櫓）			板状	3		無		縦2	2	半円	鉄		—		TK47
静岡県	石ノ形古墳＊			板状	2		無		縦2	2	半円	鉄		—		(TK23～TK47)
岐阜県	熊田山北4号墳＊			板状	1		無		1	半円	？		—		—	(TK23～TK47)
奈良県	新沢312号墳＊			板状	3	D？	無		2	方	鉄		—		TK10	
静岡県	井守塚5号墳（第2主体部）			鉢状？	3		無？		？	？	？	金銅		—		(TK47～MT15？)
大分県	法恩寺4号墳	環状	1			A	擬2条	○ ×	2・4	方	金銅鉄		—		TK10	
宮崎県	小木原地下式横穴墓	(環状)		板状	2	B	無		2	方	鉄		—		(MT15)	
鳥取県	開地谷古墳群			板状	2		無		2	方	鉄		—		—	(MT15～TK10)
兵庫県	梅田25号墳＊			板状	1		無		1	方	鉄		—		—	TK10
三重県	鎌切3号墳			板状	6		無・1条	×	3	半円	鉄		—		—	TK10
茨城県	西大塚1号墳	環状	1	組合鉢状	1	A D	2条	○	無	半円 半円	金銅鉄		剣菱		(MT15～TK10)	
石川県	滝3号墳	環状	1	鉢状	5		1条	×	1	半円	鉄？		三鈴		—	MT15
東京都	池上堤方権現台古墳	無脚	1	鉢状	3	C D	2条	○	無	方 半円？	金銅鉄		—		MT85	
福井県	二子山3号墳			鉢状	2		1条	×	1	半円	鉄		—		—	TK10
埼玉県	下小坂3号墳＊			鉢状	4	D	無		3	方	鉄		—		(MT15～TK10)	
静岡県	雲座D1号墳			鉢状	3		1条	×	1	半円	鉄		—		—	MT15～TK10
愛媛県	高橋仏師1号墳			鉢状	1		1条	×	1	方？	鉄		—		—	MT15～TK10
栃木県	琴平塚9号墳			鉢状	3		1条	×	1	半円	鉄		—		—	(MT15～TK10)
宮崎県	島内115号地下式横穴墓			鉢状	3		1条	×	1	半円・方	鉄		—		—	(MT15～TK10)
三重県	奥小波田1号墳（第2主体部）			鉢状	3		1条	×	1	半円	鉄		—		—	MT15～TK10
兵庫県	立石105号墳			鉢状	3		1条	×	1	半円？	鉄		—		—	MT15～TK10
三重県	加和良1号墳（第1主体部）			鉢状	2		1条	×	1	半円	鉄		—		—	MT15
山口県	水金古墳			鉢状	3		1条	×	1	半円？	鉄？		—		—	TK10～TK43
茨城県	高崎山西2号墳			鉢状	3		1条？	×	1	半円	？		—		—	MT15～TK10
福井県	きよしの2号墳			鉢状	8		1条	×	1	方	鉄		—	環状<？>		TK10～TK43
長野県	ドドメキ1号墳＊			鉢状	1		1条	×	—	—	鉄		—		—	—
宮崎県	大萩27号地下式横穴墓			鉢状	3		2条	×	1	半円？	？		—		—	MT15？

滋賀県	北谷 5 号墳			鉢状	1			2 条	×	1	半円	鉄		—		TK10 ～ TK43
京都府	向野 22 号墳			鉢状	3			2 条	×	1	半円	鉄				TK10
宮崎県	馬頭 5 号 地下式横穴墓※			鉢状	4			2 条 ?	×	1	方	?				(MT15 ～ TK10)
宮崎県	島内 2 号 地下式横穴墓			鉢状	6			?	?	?	?	鉄 ?		—		(MT15 ～ TK10)
福岡県	小野牟田 2 号墳	環状	1	嵌込貝	2	A E	1 条	×	1	半円	鉄		心葉			(MT15 ～ TK10)
兵庫県	平松 4 号墳			嵌込貝	3	E	2 条	×	1	方形	鉄		—			MT15
環状（兵庫鎖素環式）																
熊本県	城ヶ辻 7 号墳	環状	1				1 条	×	1	半円・方	?					TK10
奈良県	寺口忍海 II-35 号墳			(組合)	?	A	—	—	無 / 4	方	金銅					(TK10)
千葉県	大山台 33 号墳	板状 ?	1			B	1 条	×	1	半円	鉄 ?					TK10
群馬県	少林山台 12 号墳	無脚	1	無脚	3						金銅	花文				MT15 ～ TK10
埼玉県	黒田 4 号墳			無脚	3	C					金銅					(MT15 ～ TK10)
愛知県	松ヶ洞 9 号墳			鉢状	3		1 条	×	3	半円	?				複環式 〈?〉	(TK47 ～ MT15)
岡山県	北山 2 号墳			鉢状	3		1 条	×	1	半円	?					MT15 ～ TK10
京都府	安国寺平山古墳			鉢状	2		1 条 ?		1							TK10
栃木県	小野巢根 4 号墳			鉢状	3	D	1 条	×	1	方	鉄		—			TK10
宮城県	久見迫 6 号 地下式横穴墓			鉢状	2		1 条	×	1	半円	?					—
京都府	小谷 17 号墳			鉢状	3		1 条	×	1	半円	?					TK10
奈良県	新沢 160 号墳 (吊金具付)			鉢状	3		?	?	?	方	?					MT15 ～ TK43
大分県	飛山 23 号横穴墓			嵌込	3		1 条	×	1	半円	?					—
岐阜県	船来山 0-246 号墳			嵌込	3	E	1 条	×	1	半円	鉄					TK10 ～ MT85
環状（兵庫鎖矩形立開式）																
大分県	法恩寺 4 号墳	無脚	1								金銅	鈴	—	内湾、 環状☆		TK10
岡山県	九日場古墳	無脚	1	無脚	2	C					金銅	花文	—			TK10
静岡県	権現山 1 号墳	無脚	1								金銅	花文	—			TK43 ～ TK209
宮崎県	島内 139 号 地下式横穴	無脚	1	無脚 鉢状	3	C D	2 条	×	1	半円	金銅 鉄	花文	—	環状※		(MT15 ～ TK10)
大分県	長湯 3 号横穴			鉢状	3		2 条	×	1	半円	鉄		—			MT15
愛媛県	東山鷲が森 2 号墳			鉢状	3		2 条	×	1	半円	鉄		—	環状☆		MT15
岡山県	中宮 1 号墳			鉢状	3	D	2 条	×	1	半円 ?	鉄		—	f 字、 環状※		TK10
岐阜県	船来山 G-29 号墳			鉢状	3		2 条	×	1	半円	鉄		—	複環式 ※		TK10 ～ MT85
奈良県	頭塔下古墳			鉢状	3		2 条	○	1	五角	鉄	花座	—			MT85 ～ TK43
宮崎県	一本木横穴墓	嵌込 無脚	3 1			C E	1 条	×	1	方	?		鐘	環状 〈?〉		TK43 ?
愛媛県	旦 13 号墳			嵌込	1		2 条	×	1	—	?		—			TK10 ～ MT85
静岡県	吉影 D3 号墳			嵌込	1	E	—	—	1	半円				十棹※		(TK10 ～ TK43)

目 1 条責金具] となるが、一部金銅装の脚を用いる場合がある。

鉄製内湾楕円形鏡板轡 中期後半⁽¹⁾にはA類8例、B類6例、D類? 1例⁽²⁾がみられ、A類（環状・組合式）が多く、B類（板状）も一定数ある。A類の脚が鉄製の「3 銚+無刻目 1 条責金具」主体で、一部金銅装品を用いる場合もある点で鉄製 f 字形と似た様相である。

後期に入ると、A類4例、B類4例、C類1例、D類21例、E類2例と、一斉にD類（鉢状）を伴うようになる。鉄製の「1 銚+無刻目責金具」がほとんどで、責金具は1条・2条ともに存在する。一部金銅装を用いることがあり、その場合、前代と同じくA類（C類もあるが、脚用の飾金具を合わせる形）となる。

兵庫鎖付素環式環状轡 後期から新出する轡型式で、A類2例、B類1例、C類2例、D類7例、E類2例であり、D類（鉢状）主体である点、「1 銚+無刻目責金具」を基本とする点は、

内湾楕円形鏡板轡と同様であるが、責金具は1条使用のみみられる。

兵庫鎖付矩形立聞式環状轡 後期から新出する轡型式で、C類5例、D類6例、E類3例である。D類（鉢状）主体である点、[1鉢＋無刻目責金具]を基本とする点は、後期のほかの鉄製轡と同様であるが、責金具は2条使用のみみられる。また比較的、金銅装の無脚雲珠・辻金具（大・小型品がみられる場合に小型品を辻金具とみる）が多い。

4. 考 察—金銅装・鉄製馬装における雲珠・辻金具を概観して—

（1）中期後半—f字形・内湾楕円形鏡板轡—

材質・鉢数・責金具の差 中期後半は、環状雲珠・辻金具や組合式辻金具が主に用いられ、金銅装轡においてはTK208型式段階に無鉢頭の脚が、TK23～47型式段階に4・5鉢留めの脚が主体となり、脚地板には金銅張を施す。責金具は刻目が入り、2条化するなど徐々に装飾性を増す。一方、鉄製轡では、脚は鉄製で半円形3鉢留め、無刻目1条責金具を使用するなど、材質・鉢数・責金具数やつくりの点で金銅装轡に伴うものより簡略的である。

金銅装轡に伴う責金具の変化 金銅装f字形鏡板轡の雲珠・辻金具に伴う責金具は、鏡板形態の田中分類IC式（田中2004、屈曲が強く大型化）とともに刻目入りが現れ、鏡板の製作技法で片山分類一体被Ⅱ式（片山2018、金銅板一体被技法・引手の固定式遊環連結）とともに2条使用が定着する（表3）。当段階について田中はf字形鏡板轡の国産開始期となる可能性を示し⁽³⁾、また片山は一体被Ⅱ式の型式学的まとまりから、その製作技術が後の量産化に大きな役割を果たしたと推定する。その段階中に雲珠・辻金具の装飾要素にも徐々に規範が生じるようすが読み取れ、国産化萌芽の一要素と捉えることもできよう⁽⁴⁾。

板状辻金具の採用 内湾楕円形鏡板轡では、環状・組合式辻金具よりさらに部品数・鉢数の省略により装着時の手間も簡略化されたと思われる一体造の板状辻金具を用いる例も多い。従来指摘される、辻金具3点前後の面繫馬装を基本とする性格（宮代1993）に特化してか、効率重視の部品を使用した形と考えられる。金銅装の轡には基本的には一体造の板状辻金具が組合わないことから、金銅装馬装の生産とは一定の距離をもった可能性が考えられよう。

金銅装・鉄製部品の混在 一部、鉄製轡では金銅張の脚金具や杏葉を伴う例がある。鉄製内湾楕円形鏡板轡と金銅装杏葉・辻金具の組合せについて、轡の装飾性をより重視する意識と対照的で、この轡が首長古墳より古墳群・小地域内の中心的な古墳で出土するという所有者の性格を反映すると指摘される（白澤1999）。反対に、金銅装f字形鏡板轡（地板金銅張に鉄縁金）で、鉄製板状辻金具3点を用いた鉄製馬装に類似する例（東宗像21号墳例、松尾2015）もある。この例は、むしろ臨時的に入手した金銅装の轡を鉄製馬装の中に置き換えた可能性も考えられよう。このような金銅装・鉄製部品の混在は、馬装デザインが限られる中で、使用者か供給者

どちらかの意図により、階層性表現を試みた結果かもしれない。

初期の鉢状辻金具か

中期後半にみられる車谷 42 号墳の鉢状辻金具は、図を見る限りだが責金具を付ける脚付け根に小さな割り込みがあるよ

表 3 中期後半に A 類を伴う f 字形鏡板轡の分類

都道府県	遺跡名	責金具 条数	刻目	紙 数	田中分類 (2004)	片山分類 (2018)
長野県	新井原 12 号墳 4 号土壙	1 条?	×	無	Ⅲ	鉄縁別被 1
福岡県	塚堂古墳 (1 号石室)	1 条?	?	無	—	—
群馬県	井出二子山古墳 (古相)	1 条?	×	3	—	金銅縁別被
福岡県	山の神古墳 A	1 条?	×	4	I C1	一体 2
鳥取県	倭文 6 号墳	1 条 / 2 条	○	4	I C1	別被 2
埼玉県	稲荷山古墳	1 条	○	5	I C1	別被 3
		1 条	×	4		
		1 条	○	無		
静岡県	石ノ形古墳	1 条	○	無	I C2	一体 2
群馬県	井出二子山古墳 (新相)	2 条 ?	× / ○	4/5 無	—	一体 2
東京都	亀塚古墳	2 条	○	5	I C1	一体 2
福岡県	番塚古墳	2 条	○	5	I C1	一体 2
三重県	キラ土古墳	2 条	○	5	I C1	一体 2
京都府	トツカ古墳	—	—	—	I C?	一体 2

うで、この特徴は、滋賀県鴨稲荷山古墳の報告で小野山節も導入初期製品の特徴とみており（小野山 1995）、ほか和歌山県大谷古墳でもみられる。金銅装内湾楕円形鏡板轡は従来、大加耶地域との関連が指摘されるが（鈴木 2002）、鉢状辻金具の導入を考える上でも半島との関係が注意される⁽⁵⁾。

（2）後期初頭以降の金銅装・鉄装馬装の組合せの様相

金銅装馬装間の差異と共有 後期に入り鉢状雲珠・辻金具が普及するが、f 字形鏡板轡では前代以来の環状雲珠・組合式辻金具を伴う。ただし脚が金銅張の無紙頭にほぼ統一される点は、従来指摘される工房再編の一部である可能性がある。対して十字文楕円形鏡板轡は、基本的に鉢状雲珠・辻金具を伴う。この差から両者は独立性をもった生産組織だったとみる指摘もあり（古川 2019 : p. 105）、異なる部品製作・供給の方針に則っていたものと読み取れる。一方で両者とも使用する責金具は刻目入 2 条を基本とする点は、前代に定着した規範を引き継ぐ。前代の金銅装 f 字形鏡板轡の馬装製作工房を母体に、後期初頭の再編が進んだことを反映するとみることができるかもしれない。

また、鉢状辻金具類を伴う f 字形鏡板轡、組合式辻金具類を伴う十字文楕円形鏡板轡も客体的が存在し、モノや情報がやり取りされる関係性が工房間にあったものと考えられる。

鉄製轡の変化と系統 後期に入り鉄製轡では形式が多様になるが、鉄製辻金具による面繫馬装を基本とし、求められる性格は前代より変らない。しかし、鉢状辻金具が一斉に採用される点は、兵庫鎖の採用（大谷 2016）と連動し、倭王権と想定できる主導的な力が働いた可能性がある。金銅装轡に伴うものでは責金具の要素がほぼ統一されたが、鉄製轡では刻目はなく条数は 1・2 条が混在する。環状轡では素環式で 1 条、矩形立聞式で 2 条に分かれるため、工房系統の差が考えられる。両者は兵庫鎖装着部のつくり以外に、矩形立聞式では当初より遊環介在型の引

手連結がみられるが素環式ではみられない点など、直接的関係が強くないとの指摘もあり（大谷前掲：p. 14）、規範を異にする製作・組立の場をもっていた可能性が高い。また、矩形立開式では金銅装の無脚雲珠・辻金具を伴う例も注意される。うち3例（九日場、島内 139 号、権現山 1 号）は、金銅装馬具に伴う花文付馬具（松浦 2004）ではみられない鋸歯文状の彫金が施され、九日場古墳例⁽⁶⁾・島内 139 号墓例では、金銅装馬具セットの無脚雲珠にもみられる毛皮繫付着（片山 2016）が確認できる。貴金属供給・彫金技術からも、金銅装馬具製作との近い関係が想定されるが、文様の差から、部品だけの入手でなく、独立した製作も推定できる。以上より後期初頭、鉄製轡においては倭王権の主導を想定できる共通的な動きがみられる一方、各型式の製作・組立の場には差があり、一定の分化した様相があった可能性を挙げておく。

おわりに

金銅装・鉄製轡の雲珠・辻金具の採用状況について、まとまらない論述となってしまったが、後期初頭前後の様相を概観した。資料収集の不足や、セット関係や時期を考慮して恣意的な抽出となった面も否めない。予察に留まった点はより多角的に整理していく必要があるだろう。

本稿は、修士論文の一部を大幅に修正したものである。在学当時、福永伸哉先生、高橋照彦先生をはじめ、研究室諸氏には数多くご指導ご助言をいただいた。また、在学時からの蓄積になるが本稿内容にかかる資料の実見等で、諸機関の皆様にもお忙しい中便宜を図っていただきご高配を賜った。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

綾部市資料館、大阪府立近つ飛鳥博物館、岡山県古代吉備文化財センター、観音寺市文化振興課、滋賀県立安土考古博物館、たつの市龍野歴史文化資料館、津山弥生の里文化財センター、天理市埋蔵文化財センター、松山市考古館、三重県埋蔵文化財センター（五十音順）。

福永先生ご退官にあたって。学生時代に受講した先生の講義内容は現職でもたびたび思い返し、今も指針となっています。自分は不出来な学生でしたが、福永先生に学べたことは一つの財産です。学恩に心より感謝申し上げるとともに、今後も末長いご活躍を祈念申し上げます。

註

- (1) 後期初頭の兵庫鎖立開への変化を重視して、中期後半は吊金具のみを伴うもの、後期は兵庫鎖を伴うものと認識し、金具が欠落する場合も鏡板型式・共伴品等から段階推定できる例は取り上げた。
- (2) 静岡県井守塚 5 号墳例（松井編 2004）であるが、実見はしておらず報告文と出土状況図での確

認のみで詳細が不明のため、評価は保留する。

- (3) 田中は I C 式のような幅広に発達した形態が朝鮮半島ではみられず、日本では多く出土することから、この段階での国産が始まっている可能性を挙げる（田中 2004）。
- (4) 刻目のある責金具は日本列島で普遍的となるが、朝鮮半島では現状限られ、片山による斜線文・綾杉文をもつ馬具の集成によれば、陝川玉田 M3・M6・M7 号墳、高霊池山洞 44 号墳、山清生草 M13 号墳、昌原茶戸里 B1 号墳祭祀遺構 1 で斜線文をもつ責金具が確認され、大加耶地域がその中心とみられる（片山 2018 : p. 58、諫早 2012 : p. 196）。特に銀被を行う点、二条使用する点では玉田古墳群とのつながりがうかがえる。なお、日本での最初の事例は TK216 型式段階の福岡県瑞王寺古墳例とみられる。共伴する鑣轡・木心鉄板張輪鐙が洛東江中流域西岸地域に故地を求められる（諫早 2003）ことと符合するが、責金具は金銅製で、時期的な空白もあるため連続性は明らかでない。
- (5) 脚部付け根の削りは古墳時代中期末～後期初頭の舶載品か特注品とみられるセットで一旦みられるが、定型化された鉢状雲珠・辻金具では省略される。その後、埼玉県将軍山古墳、熊本県才園古墳、福岡県船原古墳、奈良県珠城山 3 号墳など、TK43 型式段階のいわゆる「新羅系」馬具にもみられる。日本列島での継続性は考えにくく、朝鮮半島でこの特徴を継ぐ工房系統があったものと推定する。系譜について検討には至らないが、諫早直人による編年（諫早 2012）で 5 世紀中葉～末とみられる大加耶 3 段階の池山洞 44 号墳、新羅 4 段階の林堂 A5 号墳などで同特徴の雲珠・辻金具がみられる。
- (6) 報告（栗野 1974）では裏面の図はないが、津山弥生の里文化財センターにて実見させていただいた。

参考文献（報告書類は省略）

- 諫早直人 2003 「瑞王寺古墳出土馬具の再検討」『筑後市文化財調査報告書 73 : 筑後市内遺跡群 IX』筑後市教育委員会、福岡 : pp. 221-230
- 諫早直人 2012 『東北アジアにおける騎馬文化の考古学的研究』雄山閣、東京
- 大谷宏治 2016 「兵庫鎮立閑素環状鏡板付轡の特質」『静岡県埋蔵文化財センター研究紀要』第 5 号 静岡県埋蔵文化財センター、静岡 : pp. 1-20
- 小野山節 1995 「楕円形鏡板三葉文杏葉馬具の将来とその模倣」『琵琶湖周辺の 6 世紀を探る』京都大学文学部考古学研究室、京都 : pp. 73-80
- 片山健太郎 2016 「古墳時代馬具における繫の基礎的研究」『史林』99 巻 6 号 史学研究会、京都 : pp. 36-74
- 片山健太郎 2018 「馬具からみた倭文 6 号墳」『倭文 6 号墳出土遺物の研究 出土品再整理報告書』鳥取市教育委員会、鳥取 : pp. 46-73
- 片山健太郎 2020 「古墳時代中期の馬具編年—中期後半を中心として—」『中期古墳研究の現状と課題 4 副葬品による広域編年再考』中国四国前方後円墳研究会、島根 : pp. 9-24
- 栗野克己 1974 「久米町・九日場古墳出土遺物の概要」『岡山県埋蔵文化財報告』4 岡山県教育委員会、

- 岡山：pp. 59-61
- 白澤 崇 1999「鉄製楕円形鏡板付轡とその馬装」『石ノ形古墳』袋井市教育委員会、静岡：pp.367-382
- 鈴木一有 2002「経ヶ峰1号墳の再検討」『三河考古』第15号 三河考古学談話会、愛知：pp. 1-20
- 田中由理 2004「f字形鏡板付轡の規格性とその背景」『考古学研究』51-2 考古学研究会、岡山：pp. 97-116
- 田中由理 2015「5世紀後葉から6世紀前葉の日本列島の馬具生産とその背景」『古代武器研究』vol. 11 古代武器研究会、山口：pp. 27-38
- 肥田翔子 2021「引手長からみた古墳時代後期初頭の轡製作の変化」『技と慧眼—塚本敏夫さん還暦記念論集—』塚本敏夫さん還暦記念論集事務局、奈良：pp. 185-196
- 福永伸哉 2005「いわゆる継体期における威信財変化とその意義」『井ノ内稲荷塚古墳の研究』大阪大学稲荷塚古墳発掘調査団、大阪：pp. 515-524
- 古川 匠 2019『国府時代の装飾馬具生産体制』雄山閣、東京
- 松井一明（編）2004『地藏ヶ谷古墳群・横穴群Ⅰ・Ⅱ』袋井市教育委員会、静岡
- 松浦宇哲 2004「花文付馬具の編年と系譜」『古文化談叢』第50集 九州古文化研究会、福岡：pp. 65-79
- 松尾充晶 2015「観音寺狼谷山遺跡出土馬具について」『観音寺狼谷山遺跡』一般財団法人米子市文化財団、鳥取：pp.71-75
- 宮代栄一 1993「5・6世紀における馬具の「セット」について」『九州考古学』第68号 九州考古学会、福岡：pp. 19-48
- 宮代栄一 1996「倭人たちの馬装」『鞍金具と雲珠・辻金具の変遷』『黄金に魅せられた倭人たち』島根県立八雲たつ風土記の丘、島根：pp. 40-41, 48-53
- 宮代栄一 2003「古墳時代の馬装の変遷—アセンブリッジに基づく馬具の複合的分析—」『地域考古学の展開—村田文夫先生還暦記念論文集—』村田文夫先生還暦記念論文集刊行会、福島：pp. 189-201